



Title	インテリアデザイナーのための英語とその問題点
Author(s)	野口, 企由
Citation	デザイン理論. 1993, 32, p. 86-87
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/52913
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

インテリアデザイナーのための英語とその問題点

野口企由

近年インテリアデザイン活動の中で、横文字、特に英語表現が増加の一途を辿っていることは、誰もが認めるところであると思う。書物に現われるその数には驚くべきものがある。欧米生活様式が一般化した現状を考えると、今後この傾向は益々進行してゆくであろう。しかし、それが未だ「カタカナ」英語の域を脱しえないで、国際的には通じない、または誤解を招くような英語表現として使われていることは実に残念なことである。私はこういった問題を少しでも軽減するために、大学に於けるインテリアデザイン教育の一環に、英語表現の授業を特別に設けている。今回の発表では、経験的積み上げから重要と判断した項目について取り上げた。以下、その概要を記す。

まず、現状の分析を行い、いかなる表現が実際どういった状況で乱用されているかを把握することが肝要である。今まで気付かずに読んだり使っていたカタカナ英語を見直してみるのである。カタカナ英語の使用量については、やはり雑誌類が上位であり、筆者の調査でもひどいものでは、たったA-3見開き一枚の中で200語以上の乱用が発見できた。以下、専門誌、単行本、論文へと続く。品詞の分析では、普通名詞と形容詞が最も多く、続いて動詞を名詞化したもの、副詞、略語へと続く。内容によって英語使用の必然性に差異があり、必ずしもこの順位があてはまらない場合もあるが、やはり見逃せないのは、著者や編者の注意力によって相当の違いが生じることで

ある。例えば、月刊誌の中であっても、* *大学教授と記された先生方による評論文等を見ると、一般的に理解できる英語に限定してカタカナ英語を使い、混乱や誤解を招きそうなものは避けていることが解かる。このような気配りは見習うべきである。

次に乱用の内容を見てみよう。まず発音の違いによって生じる意味の不通や誤解の問題がある。これが、ごく限られた専門用語のみについて生じるのであれば弊害はまだ少ないと言えるのだが、実は、室内を表現する基本的な語句に極めて多く使われているのである。2、3の例を挙げよう。部屋という意味でのROOMをLOOMと発音すればどのような事態になるのか。照明器具を表すLAMPをLUMPと発音すればどうなるのか。LOOMは名詞で「織機」、動詞で「ぼんやりと現われる、(危険、心配等が) 気味悪く迫る」という意味であり、LUMPは名詞で「塊」「こぶ」の意味である。もっとひどい例もある。織物などのふさ飾りを示すFRINGEをフレンジと表現している本が多々ある。フレンジはへたをすればFRENZY、つまり「狂乱、逆上」の意味になってしまう。次に、英語として通用しない場合がある。「電気スタンド」や「コンセント」等の類である。前者はDESK LAMPやFLOOR LAMPであり、後者はOUTLETやPOWER POINTなのである。また、意味を正しく理解せずに使っている場合も極めて多い。これは特に動詞に於いてである。例えば、

インテリア・コーディネーターやプランナー等という資格が最近制度化されたが、有資格者を集めた講演で、「コーディネート（正しくはコウオーディネイト）」の意味を尋ねると、解答が返ってこない。「プラン」にしても、果たしてどれだけの人があるの正しい意味を知っているのか疑問である。つまり、あらゆる表現において、横文字の体裁の良さを追うのであれば、その語句の正しい意味の把握を伴うものでなければ、益々混乱を招くと思われるのである。

第三に、解かりやすい表現方法を身に付けるにはどうするべきかを考えてみよう。これには、室内を表現する基本的な単語を使って短文を作ることが重要である。室内には色々なものがあり、それらは独自の性質を持つと同時に何らかの形でお互いに関係し合っている。この性質や関係を平易に表現してみるのである。この練習の集積が、より高度な表現へと繋がってゆく。例えば、TABLE → ON THE TABLE → ON THE WOODEN TABLE → A LAMP ON THE WOODEN TABLE → I PUT A LAMP ON THE WOODEN TABLE …… というように。

このようにして、インテリアデザイナーも英語表現の氾濫に対して幾らかでも対処することができるはずである。その要点を以下、個条書きにまとめておくことにする。

* 要求される表現についての重要事項

1. 日常生活に於ける様々な物品の名称表現
2. 物や空間の様々な属性（形、色彩、質感等）表現
3. 物や空間の位置関係表現
4. 物や空間に人間が与える行為とその効果の表現
5. 人間の感情を表す表現

6. 特殊なデザイン・建築用語の表現

* 学習方針についての重要事項

1. 部屋、建具、家具、小物、設備機器その他の正しい名称と発音、意味、単数複数の理解
2. 基本的な形容詞、前置詞の把握
3. 日常よく行う行為を表す動詞の把握（これらは、それぞれ十～数十程度の単語数で充分初歩の表現が可能）

* 教材についての重要事項

1. 今居る部屋がまず最良の教材となる（具体的な情景、実物、または絵や写真で身に付け、日本語から翻訳しない）
2. 絵本等の平易な説明の書かれた書物から始め、徐々に評論、論文等の複雑な表現を伴う書物へ進む
3. 洋雑誌類によって碎けた表現や新しい表現に馴れる
4. 英英辞典等の活用

* 恐怖心の解消についての重要事項

1. 現在知っている言葉で平易に組み立てればよい
2. 見たものを英語で表現してみる癖を付ける
3. 情景を思い浮かべながら作文する
4. 簡単な質問が英語でできるようにする
5. 英語でメモをとる等、日常生活の中に表現練習を自然に取り入れる努力をする

のぐち・きよし 岐阜女子大学
1992.11 第34回大会